

平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 美術（美術）（1/2枚目）

美術部会 部長（市場 陽一郎）

調査の観点	開隆堂	光村図書	日本文教出版
<p>1 内容 (1)発達段階に即している (2)興味・関心を引き出す配慮 (3)本市の学力の実態へ配慮</p>	<p>(1)・制作技法について触れられている。 ・表し方や材料の工夫が記載されていて、作品の写真が大きい。 (2)・鑑賞の領域において、文化の流れが世界的な規模で捉えられている。 ・鑑賞の授業の手立てになるよう、日本や世界のアーティストを作品とともに紹介されている。 ・原寸ギャラリーがあり、実物への興味を引き出す配慮がされている。 ・発想のヒントになるよう生徒作品とともに作者の言葉があり、制作理由が記されている。 ・色彩ホームページがあり、色についての基礎を理解できるよう工夫されている。 (3)・特筆すべきことはない。</p>	<p>(1)・学びの目標が明確に示されている。 ・制作手順、制作技法が多く取り上げられている。 (2)・日本の文化や伝統に言及していて、鑑賞の授業にも取り入れやすい工夫がされている。 ・親しみのある現代の流行歌やゴッホの原寸大の自画像などの掲載がある。 ・学習を支える資料として、様々な素材を網羅し、日本と世界の美術や文化の紹介が豊富である。 ・美術史年表が記載されている。 ・資料や作品例の種類が豊富であり、資料集としても活用できる構成である。 (3)・特筆すべきことはない。</p>	<p>(1)・図工から美術へ移行するための配慮や工夫がなされている。 ・制作技法について詳しく説明してある。 ・学びのねらいが明確に示されている。 (2)・鑑賞の領域において、文化の流れが世界的な規模で捉えられている。 ・作品紹介や参考例の写真が大きい。 ・伝統芸能における美術の役割について、種類が豊富で詳しく記載されている。 ・制作時に工夫できるよう、題材ごとにポイントが表示されている。 ・資料集としても活用できる構成である。 ・生徒作品の参考例が豊富で、作者の言葉も記載されている。 ・自然や環境とのつながりを意識した工夫があり、環境デザインへの興味・関心を引き出す配慮がある。 (3)・特筆すべきことはない。</p>
<p>2 構成及び分量 (1)内容の組織配列、発展的記述 (2)発達段階に配慮した分量 (3)基本事項の押さえと補充教材 (4)発展教材への配慮</p>	<p>(1)・鑑賞の内容は、「絵画・彫刻」「デザイン・工芸」の合間に組み入れられている。 ・美術1年はスケッチや素材の可能性を中心とした構成に、美術2・3年ではさらにそれらを用いて生活に生かし、社会に向けて発信していく構成になっている。 ・基本事項のまとめが各分野に位置付けてある。 (2)・絵画や彫刻、デザイン・工芸、鑑賞のガイダンスも適量である。 ・どの分野も同量の扱いとなっている。 ・美術1年の教科書では、身近なテーマを題材とし、絵画・彫刻の分野が多い。美術2・3年の教科書では、広がりのあるテーマを設定し、美術を通して内面や世界へと視野を広げていくことができる作りとなるよう工夫されている。 ・様々な授業実践が生徒作品で紹介されている。 (3)・巻末に「パレットコーナー」「工具箱」「色彩ホームページ」を位置付けている。 ・随所に作り方や補助的資料が入っている。 (4)・関連ある内容をまとめて表現した複合的な作りとなっている。 ・現代作家の作品が多い。</p>	<p>(1)・鑑賞の内容は、「絵画・彫刻」「デザイン・工芸」の合間に組み入れられている。 ・美術1年の最初に美術への誘いの言葉が添えられ、美術2・3年の終わりに生涯にわたって美術を愛好していこうとする言葉が添えられている。 ・基本事項が後半にまとめられている。素材ごとに表現の可能性が示されている。 ・道徳とのつながりが表記されている。 (2)・美術1年生の教科書では、身近なテーマを題材とし、どの分野もほぼ同量にまとめている。美術2・3年生の教科書では、内面や世界への広がりへ結びつく題材を多く取り入れている。絵画や彫刻の分野が多い。 ・絵画や彫刻の分野で、大きなテーマを細分化し多くの題材に対しても対応することが出来る分量となっている。 ・生活の中の美術との関連性が多く取り上げられている。素材ごとの可能性が示されている。 (3)・「学習を支える資料」に技法や用具の使い方等が示されている。 (4)・テーマごとに参考となる資料を多く組み込み、発想の助けとなる作りとなっている。 ・谷川俊太郎の詩を取り入れ、言語活動を通して、作品の理解や発想につなげている。さまざまな授業実践が生徒の作品で紹介されている。 ・現代作家の作品が多い。</p>	<p>(1)・鑑賞が「絵画・彫刻」「デザイン・工芸」の合間に組み入れられている。 ・基本事項を後半にまとめている。 ・美術1年は表現の多様性と素材との出会いについて、美術2・3年上は自分と周囲との関わり方や視点の違い、美術2・3年下が社会との関わり方、よりよい生活への発展と、3年間の流れを示している。美術1年の最初の文章で表現の喜びへ誘い、美術2・3年下の最後の文章で生涯にわたって美術を愛好していこうとする心情を綴っている。 ・目次が見やすいところにあり、全体を捉える工夫がされている。 ・道徳とのつながりが表記されている (2)・生活の中の美術との関連性が多く取り上げられている。 ・美術1年の教科書では、身近なテーマを題材とし、どの分野もほぼ同量にまとめている。美術2・3年上下の分冊となっており、上巻は絵画や彫刻を多くし内容を深め、下巻でほぼ同量にまとめ、探究することによって内面や世界へ目を向けさせる段階的な作りとなっている。 (3)・「表現や鑑賞の技法」、「技法の資料」、「色彩の資料」が位置付けられている。 ・大きなテーマを細分化し、どの題材においても補足的な工夫がされている。 (4)・作品だけではなく、技術指導の図を各テーマのページの中に一緒に組み込んでいる。 ・素材がもつ可能性を大きな写真で示している。</p>
<p>3 表記及び表現 (1)生徒にとって読みやすい表現 (2)印刷、写真等の見やすさ</p>	<p>(1)・学習のねらいが明示してある。 ・生徒作品を含む掲載作品は多いが、一つ一つの作品が小さい。 ・資料が多く、サイズの大きな作品を使用している。 ・情報量が多く、文字サイズが小さい。 ・作品と本文等の配置が統一されていない。 (2)・色遣いがカラフルである。 ・同じページに複数の字体が混在している。 ・左右に引き出すページが多くある。</p>	<p>(1)・学習のねらいが明示してある。 ・特別支援教育に関する校閲がなされている。 (2)・すっきりとしたレイアウトで統一感がある。 ・折り込みを活用し、大きな図版を効果的に位置付けている。 ・裏表紙のバーコードに、美術科らしい工夫がされている。</p>	<p>(1)・題材ごとに観点別のねらいを明示してある。 ・日本の伝統文化や遺産について、生徒が興味・関心を引くように紙質や印刷が工夫されている (2)・統一感のある書体とレイアウトで見やすい構成となるよう工夫がされている。 ・折り込みがとて多く、浮世絵のところでは原寸大で紙質も変えている。</p>

平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 美術（美術）（2/2枚目）

美術部会 部長（市場 陽一郎）

調査の観点	発行者名 開隆堂	光村図書	日本文教出版
<p>4 使用上の便宜 (1)全体の構成が見渡せるよう配慮 (2)課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮 (3)印刷、装丁への配慮 (4)地域性への配慮</p>	<p>(1)・作品と作者がつながりをもって紹介されている。 (2)・生徒作品が多く、制作の様子も紹介されている。 ・いろいろな素材を利用した生徒作品の紹介も多い。 「ふりかえり」の部分を利用して、学習が進められる工夫がある。 ・関連した内容のページ紹介なども記載されている。 ・課題の意図が伝わるよう印象的な見出しになっている。 (3)・教科書はA4版であり、持ち運びや保管など扱いやすい。 ・美術1年、美術2・3年の2冊になっている。 (4)・特筆すべきことはない。</p>	<p>(1)・美術1年の教科書に小学校から中学校の流れが示されている。 (2)・制作上の手助けとなる様々な技法が多く掲載されている。 ・日本の美術、文化遺産が見開きで大きく鑑賞教材として掲載され、世界の美術との比較もある。 (3)・教科書はA4版であり、持ち運びや保管など扱いやすい。 ・光沢紙を使っている。 ・美術1年、美術2・3年の2冊になっている。 (4)・特筆すべきことはない。</p>	<p>(1)・表紙を開いたところに目次が示されている。 ・制作上の技法が詳細に掲載されている。 (2)・生徒作品が多く掲載され、作者の言葉がしっかりと掲載されている。 (3)・教科書はA4版より2センチ程度大きい。 ・光沢紙を使っている。 ・美術1年、美術2・3年上、美術2・3年下の3冊になっている。 (4)・特筆すべきことはない。</p>
<p>5 重点調査項目 (1)発想の転換につながる多種多様な表現が取り上げられているか</p>	<p>・美術1年では中学生の生活環境に即した題材や、作品紹介がされている。日本人が昔から使用している竹や木などを最新の技術とあわせるなど材料への発想が提案されている。 ・身近な昆虫を自然物や金属を使って制作することや生活デザインに視点を置くなど様々な発想を促している工夫がされている。 ・美術2・3年では、作品の制作過程を説明して、表現の深まりを促している。 ・作家や表現動機など、表現の内容に迫る工夫がある。 ・自国や海外作品の発想や技術を紹介することで生徒の発想が広がるよう工夫がされている。 ・同じ課題作品でも多様な表現方法を紹介している。</p>	<p>・美術1年では素材や表現方法の基礎を重点的に説明し、身近にある素材から多彩な創造を得ることができる。 ・随所に日本美術との関わりについて記載し、日本文化への関心を高める工夫をしている。 ・木や石など様々な材料を提示している。 ・気持ちや感情を表すデザインなど発想の転換につながる教材がある。 ・美術2・3年では表現場面を想定したテーマごとにカテゴリされている。 ・題材は複合的になっており、発想の多様さを促進する工夫がされている。 ・パッケージデザインなど身近なものをデザインの対象にすることができるよう作品を提示している。 ・自国や海外の作品の発想や技術を紹介することで自分の作品への深みにつながっている工夫がされている。 ・同じ課題作品でも多様な表現方法を紹介している。</p>	<p>・美術1年ではプロのデザイナーの発想から学ぶページがあり、素材や色に注目するなど発想の幅を広げる内容が多い。 ・美術2・3年では作品の支持体に着目し、浮世絵の紹介では和紙を教科書の中に差し込んである。図絵に頼り切らず、触覚も含めた感じ取り方ができるようになっている。 ・美術2・3年下では、生活環境に即した表現方法として、事例を交えながら、作品を紹介している。日常生活で表現がどの場面で生き、活用されるのかを想像することができ、表現意欲への動機付けになる工夫がされている。 ・表現や発想の可能性を求めた題材が多く、日常生活で使うものや自然物などを使った作品を紹介している。</p>
<p>(2)日本の伝統文化についての取り上げ方</p>	<p>・美術1年では自国の作品と海外作品を比較しながら鑑賞する表記があり比較の中で自国の文化を認識することができる工夫となっている。 ・生活デザインの視点からも弁当箱など機能と美点を考えながら日本の文化を紹介している。 ・美術2・3年では日本美術の絵巻物や仏像をテーマに取り上げ、日本の美術に親近感をもたせる工夫がなされている。 ・色彩については日本特有の色を紹介し、名称とともにまとめられている。 ・複数のページで、日本の文化や日本と世界の文化比較を行っており、自国の伝統文化の美しさを写真と文章を併記し、解説している。 ・生徒作品に転化できるように促す工夫がされている。</p>	<p>・日本文化を題材にした多様な表現、作品を紹介している。資料の多くから日本の文化との結びつきを想像することができる。その資料を読むことで、自分の制作活動が日本の文化の一環であることを意識することができる工夫がされている。 ・美術1年では自国文化が自然と関わりがあるところに視点を置き、絵画や彫刻、着物など多様な作品を取り上げている。また日本古来の文様と世界の文様を比較することで古今東西の文様の目的や意味を考えさせている。 ・美術2・3年では季節感という日本人らしい着眼点で暮らしの文化を捉え、日本古来の色や形を楽しむ文化を表現している。</p>	<p>・美術1年では日本の地域性を考慮したページがあり、地域性と美術をつなげた表現がある。 ・美術2・3年上下では浮世絵の印刷を原寸大で和紙に印刷するなど触覚まで刺激する内容で、日本の伝統文化の実像を知ることができる。 ・日本の美意識と題し着物や和菓子など日本の文化を紹介している。 ・日本の伝統文化は主に美術2・3年上で取り扱っている。日本美術と世界との関わりや伝統工芸を含めた日本の美意識について、参考例とともに、多岐にわたって、説明されている。 ・日本の文化遺産の記述がある。</p>